

コミュニティ・スクール情報

2021.11.16

令和3年11月16日（火）、東郷小学校で行われた「第2回おらほの学校づくり協議会」の議事録を下記にまとめましたのでお読み下さい。当日は、6年生児童代表との意見交換を短い時間でしたが行いました。児童から協議会の方々と話したいということで実施しました。

【6年生児童代表との意見交換】

児童代表より

- どんな東郷小学校にしていくか。
 - ・すすんであいさつを交わすことができる学校。
 - ・いじめはしない。させない。みんなが明るく生活できるやさしい学校。

○地域への要望

- ・修学旅行で行った米沢市の道の駅に地域をピーアールする案内板があった。三川町でももっと人の目につく場所に町を紹介する案内板を設置したらどうか。
- ・きれいな町にするために、ゴミ箱を町のいろいろなところに設置してはどうか。

協議会委員の方より

○どんな東郷小学校にしていくかに関わって

- ・今日、学校を訪問して感じたこと。明るくあいさつを交わしてくれた。いじめのない思いやりや優しさのある学校をつくっていこうとしているのがわかったので嬉しい。
- ・いじめへの共通理解を大切にしていること大事だと思う。普段の生活での意識の大切さを感じます。みんなで協力して生活をよくしていくことをお願いします。
- ・たて割り活動（昼休みの遊び）をやっていましたが大切に考えていることは？
（児童）1年生（低学年）も楽しく、全員が活躍できるように考えている。

○地域への要望について

- ・町を案内する看板はイオン等にあるが、PRの仕方については今後の検討でもある。皆さんのアイデアもだしてほしい。
- ・三川町のどんなことをPRしたいですか？
（児童）三川町の美味しい食べ物や特産品。テオトルなどの子育て支援施設。
- ・ゴミ箱の設置がありましたが、ごみを減らす心がけや出さないようにする手立てについて今後考えてほしい。これからの課題は、ごみをなくす方向。自分で出したごみは、自分で持ち帰るのは当然と考えてほしい。



5名の女子児童が6年生の代表としてきてくれました。男子児童が入っていなかったことは、意見交換に進んで参加の意志を示したのがたまたま女子だったようです。もの怖じしない前向きに大人との話し合いをしようとしている児童の立派さと意識の高さに委員の方々も大変驚いていました。

【学校運営の状況】 海藤陽子校長の説明

- めざす子ども像に『こどもにとって主体的な「学び」のある学校』を据えて取り組みを進めてきた。職員も子どもたちの主体性を大切に育むことが浸透してきている。東郷祭でも、子どもがテーマや台本をつくって劇化や調査研究発表を行った。主体性を感じている。
- 職員は、総務部・学習指導部・生徒指導部・健康指導部の4部門に分かれ、それぞれの視点からアプローチしている。その成果と課題を下記に示した。

(総務部) 子どもからテーマを立ち上げた学びの充実

- 成果
- ・主体性を育てるという意識が全職員で共有されてきた。
 - ・職員間での相互授業参観（日常的な授業の研修）が授業のレベルアップ。子どもの主体性やねばり強く学ぶ態度の育成につながった。
 - ・日常的にカリキュラム・マネジメントを意識することができた。
 - ・各学年で地域学習に取り組み、子どもの意欲喚起につながった。
 - ・子どもの思いを尊重しながら総合的な学習のテーマを立ち上げることができた。
- 課題
- ・高学年は主体性が育ってきているが、低学年への主体的な学びを広げたい。
 - ・地域講師に学習のねらいを理解してもらうための働きかけが必要。

(学習指導部) 「学び続ける個」の育成

- 全国標準学力検査（NRT）の結果からここ3年間での変化として、知能と学力との相関において、OA（オーバーアチーバー＝知能以上に学力面で成果が見られる）児童が増え、UA（アンダーアチーバー＝知能水準から予想される学力に達していない）児童が減ってきている。全国学習状況調査の質問結果からみても本校児童は良好な結果を示している。
- 成果
- ・安心して学べる、学び合える関係を作ることで、個も少しずつ学びを続けることができるようになってきた。
 - ・教師自身の学び続ける姿が見られた。
 - ・課題が身近なもの、興味関心があることだったりすると、子どもの意欲がわき、学び続けることができている。
 - ・ICTの活用が子どもの学習意欲喚起につながっている。
- 課題
- ・ICTを活用した学習を職員間でさらに研修し、日常的にしていくことが必要。

(生徒指導部) 関わりを深め、学校生活を自分たちで創ることができる

- QUテスト（楽しい学校生活を送るためのアンケート）結果において要支援児童に該当した児童は2名。（周囲との人間関係や学級での居心地等に課題をもつ児童）いじめの認知件数37件。（6月実施。未解消3件）不登校・別室登校児童0。全国学習状況調査での質問に「自分にはよいところがある」へ応える項目があるが、謙虚なのか、自分に自信がもてないのか県や全国より数値は上ではあるが低い。
- 成果
- ・長期休業あけの教育相談を各関係者と連携することができ、不登校の未然防止につながった。
 - ・子どもに自己選択・自己決定させることが意識されてきた。
 - ・「自分たちの学校生活を創ろう」という意識が芽生え、伸びつつある。
 - ・6年生の「学校をより良く」という姿勢が下級生に広まりつつある。
 - ・学級や委員会など教師の手を借りずに、自分たちの思い描くものに向かって活動

することができてきている。

- 課題
- ・子どもたちが考えられるよう布石を打ったが、創るまでいっていない学年もある。
 - ・道徳教育について教師間での議論を深め、互見授業を進めたい。

(健康指導部) 挑戦意欲を持って困難に立ち向かう「ねばり強い個」を育てる

第1回の協議会では、「ねばり強さ」に課題があるのではという意見があった。アンケート結果からみると良好な数値となっている。子どもたち自身は、頑張っているのではと思われる。

- 成果
- ・失敗した子を励ます姿が見られるようになった。
 - ・コロナ禍、児童も自分のめあてに向かって努力する姿がみられた。
 - ・思う存分外遊びができる環境で、身体を使い遊んでいる。
 - ・苦手な物も食べられる児童が多く見られた。
 - ・自ら考えて働くことのできる子が増えた。高学年に思いをもって清掃する姿が見られる。

- 課題
- ・職員間で、どうねばり強さを育てていくか、具体的な手立てを共有したい。
 - ・めあてを明確にもち、友だちと励まし合いながら取り組むよう、カード等を活用しながら頑張らせたい。

そのほか、特別支援教育においても、支援を要する児童へ、個に応じた適切な指導・支援の組織的体制を構築し、全職員が共通の認識で支援をすすめている。

学校運営状況への質問

- 「主体的学び」を育てる。低学年には難しいことではないか？
⇒先日、三川保育園・幼稚園を参観する機会があった。園児が自己選択、自己決定をして遊びをしていた。低学年を赤ちゃん扱いしていたのではと反省。もっと児童が決定する面を増やし、できることを行っていこうと感じた。
- ICT活用研修での業者との連携状況について
⇒ICT機器の設定等を取り扱っている業者であり、鶴岡市等の学校状況も理解しているので、職員が疑問に思ったことをまとめ、来校時、まとめて聞くようにしている。
ICT指導教員の配置が可能なら最高である。
- 特別支援学級在籍が13名と多いように感じるが？
⇒他地区からの希望などはない。低学年のうちに適正な支援を受けられていると判断できる。保護者の理解の上に指導ができています。
- 全国学習状況調査の結果が、県・全国より高い数値になっている。そのまま受け取ってよいのだろうか？
⇒本校の結果は全校児童の結果。県や全国は6年生のみであり、人数も本校は120名とその違いもある。参考にはするが、高いからと安心してはいない。

【熟議 = 子どもに地域のよさを伝えるには】

- ◎どんなことを伝えたいか？
 - ・学校での「学ぶ環境」がよい。子どものころは分からなくとも、大人になって理解。
 - ・自然と触れ合いながら育つことができること。その思い出を残して育ててほしい。

- ・地域全体で子どもや学校を見守っている。温かい雰囲気。
- ・東郷小学校で行ってきたこと（廣文の会等も含め）、また地域の祭りなども含め、子どもになぜ始まったか、どんな意義があるか話すこと（説明する）があればより理解してくれると思う。ここ1～2年はコロナ禍でやれなかったが、東郷小は地域とのかかわりが強いと感じる。
- ・「地域で子どもたちを育てる」という意識が強いイメージのある学校である。きっと子どもたちの根っこにもそれが生きていると感じる。
- ・地域のよさをどう伝えるかと改めて問われると困る。三川・東郷では、自然体の中で、学校との関りが育ち、よい関係を結んできた。これからもそうであってほしい。

◎課題・対応策など

- ・地域のよさというより、日本人としての誇りを大切にしてほしい。
- ・地域の課題を考える学習（地域の将来をみすえて）は大切である。
- ・地域も変わりつつあり（老人クラブ等の組織）学校も地域と結ぶ手だてを考えている。
- ・子どもに理想像を押し付けない。緩さや寛容さが必要。
- ・地域の人との関わりが薄くなってきた（元気な挨拶）、最近の世相傾向がそうあるのも理解している。過保護過ぎない環境も大切。

.....

【意見交換時に委員からごみ問題について問われ、子どもたちが出した回答】

ゴミ問題への宿題（子ども達のアイデア）

- ① ゴミ問題について校内でも子ども達に広めて、家庭に帰ってからも家族に話す。
 - ② 廃品回収の時に地域の人に、ゴミ問題を話す。
 - ③ 特にゴミのポイ捨てが多いところ、重点的に看板を立てる。
 - ④ マイクロプラスチックを学ぶ場を増やす。
- ※6年生は一昨年度、公益文科大学の呉教授のもとマイクロプラスチックの問題を学習した。